

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編

19

診療所

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の診療所に係る管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

施設一体として管理コストがかかっているため、施設ごとに管理・運営コストを分けることができません。総額の約半分は、医師等の賃金が占めています。

【診療所施設 管理・運営コスト一覧】

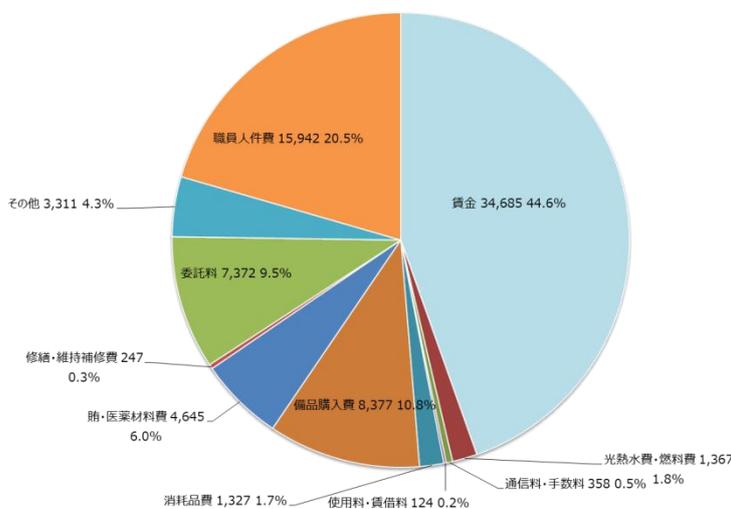
(単位：千円)

項目	国保診療所	国保診療所 リハビリ棟	医師住宅	合計
賃金	34,685	コストは国保診療所に含まれています。	コストは社会福祉協議会に委託している放課後児童健全育成事業に含まれています。	34,685
光熱水費・燃料費	1,367			1,367
通信料・手数料	358			358
使用料・賃借料	124			124
消耗品費	1,327			1,327
備品購入費	8,377			8,377
賄・医薬材料費	4,645			4,645
修繕・維持補修費	247			247
委託料	7,372			7,372
指定管理料	0			0
その他	3,311			3,311
合計	61,813			61,813
職員人件費	15,942		15,942	
		合計	77,755	

※平成25年度の実績額です。

※平成25年度から医薬品が院外処方になり、医薬材料費が減額になっています。

【国保診療所施設管理・運営コスト内訳グラフ① (単位：千円)】



診療所のコストで大きくなっているのは、やはり医師等の賃金です。医療サービスを提供するには人材の確保が最も重要であり、コストの面でもその割合が高くなります。同様に看護師、理学療法士は町職員ですので、その人件費も大きな割合を占めています。その他には医療器具などの備品購入費の割合が高くなっています。

【参考：診療所収入状況】

区 分	料金収入（単位：千円）				
	H21	H22	H23	H24	H25
外来診療	67,847	60,719	67,921	82,725	60,347
リハビリ事業	226	224	337	503	4,783
合計	68,073	60,943	68,258	83,228	65,130

外来診療の平成 24 年度から平成 25 年度の落ち込みは、院内処方から院外処方に切り替えたことによるものです。このため薬剤収入は減少しましたが、利用者数の増に応じて診療報酬は増えていると考えられます。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は 5 年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は 5 年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・40 万円/m²（解体費用も含む：医療施設）

※医師住宅はその他施設の 36 万円/m²

○解体コスト・・・3 万円/m²

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出しコストは以下のとおりです。

【診療所施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

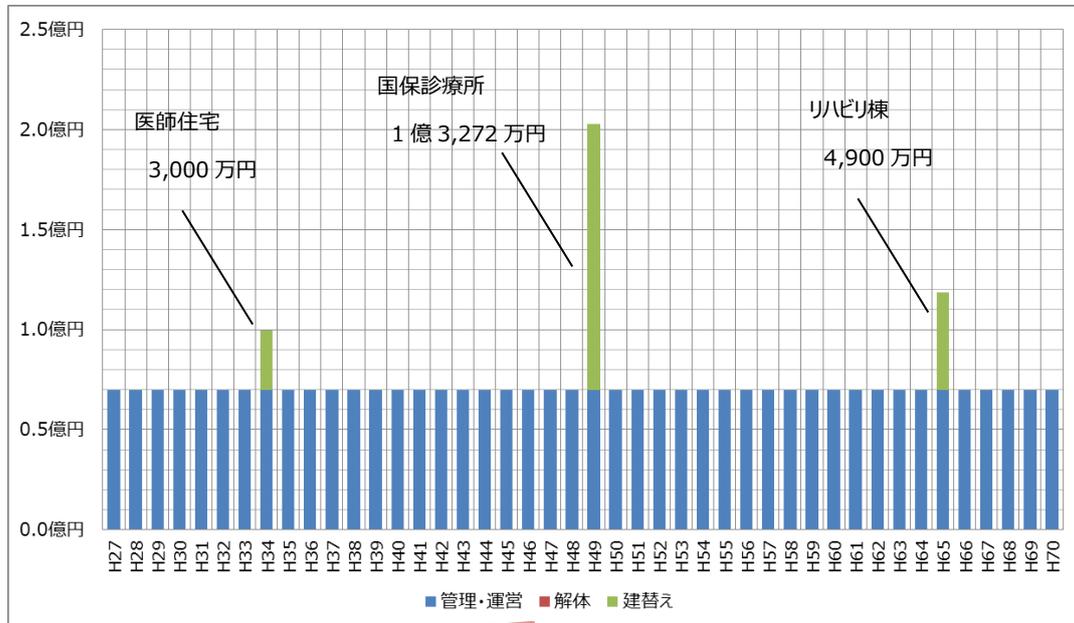
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト)	実施年度	コスト
国保診療所	S62	50年	66,066	H49	132,720	参考	9,954
国保診療所リハビリ棟	H25	40年	38,259	H65	48,624	参考	3,647
医師住宅	S62	35年	12,534	H34	29,542	参考	2,462
				合計	210,886	合計	16,063

※解体コストは参考です。

※医療機器の整備は考慮していません。

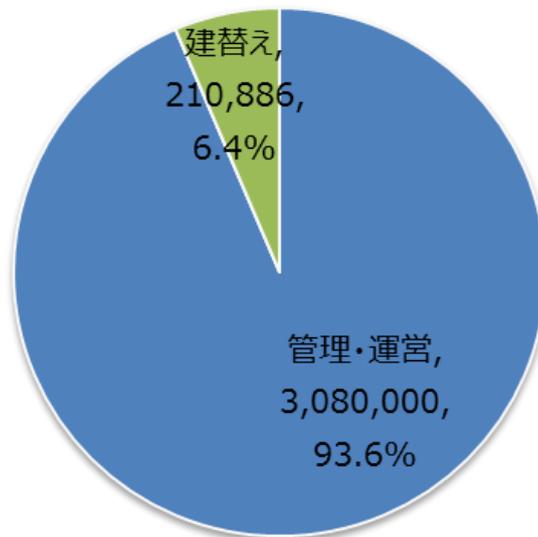
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）を含めた将来コストの推移は以下の通りです。

【診療所将来コスト推移表】



コスト総額約 32.9 億円（整備 2.1 億円、解体 0 億円、管理・運営 30.8 億円）

【国保診療所施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

国保診療所、リハビリ棟共に年々利用者数は増加しています。特に、リハビリ棟の増設により外来リハビリ診療の利用者数・料金収入が大幅に増加しています。他方、国保診療所は、利用者数は増加していますが、料金収入は増加していません。これは、平成 25 年 3 月に、院内処方から院外処方に変更となったことが影響しています。

●建物状況

国保診療所・リハビリ棟は、現時点では現在の用途のまま活用することになりますが、国保診療所の耐震性について、耐震診断を行うなど、安全性への配慮を行わなければなりません。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは約 7,700 万円であるのに対して、施設全体の利用者収入は約 6,500 万円となっています。

今後、耐用年数到達時に同規模で更新した場合、整備費が約 1.9 億円必要となる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

平成 25 年度のリハビリ棟増設により外来リハビリ診療に注力したため、それまで行っていた訪問リハビリ診療を休止していましたが、職員の体制を整え、平成 27 年度から訪問リハビリ診療を再開することとしています。それにより、外来・訪問リハビリを組み合わせた、より充実したサービスを提供することが可能となります。このように、国保診療所は地域医療の拠点となる重要な施設ですので、より充実を図っていきながら、より多くの方々にご利用いただくことで安定運用を目指していくこととなります。

また、医師住宅については、石川地区の学童保育を別の場所へ移転予定のため、施設利用がない状態となった後の利活用を現在検討中です。